

ボーリングコア解析にもとづく韓半島東海岸、花津浦・松池湖における完新世堆積環境変遷

The changes of Holocene depositional environment in the Hwajinpo and Songjiho lagoons of the eastern coast of Korea

Jong-Gwon Yum[1], 竹村 恵二[2], Kang-Min Yu[1], 成瀬 敏郎[3], 伊藤 康人[4], 林田 明[5], 金 幸隆 [6]

Jong-Gwon Yum[1], Keiji Takemura[2], Kang-Min Yu[1], Toshiro Naruse[3], Yasuto Itoh[4], Akira Hayashida[5], Haeng Yoong Kim[6]

[1] 韓国・延世大・理・地球システム科学, [2] 京大・理・地球物理, [3] 兵教大社会系, [4] 大阪府大・総合科学・自然環境, [5] 同志社大・理工研, [6] 京大・理・地球惑星

[1] Earth System Sciences, Yonsei Univ. Korea, [2] Dept.Geophysics, Grad. Sci., Kyoto Univ., [3] Dept.Geogr.,Hyogo Teach.Edu.Univ, [4] Earth Sci., CIAS Osaka Pref. Univ, [5] SERI, Doshisha Univ., [6] Earth and Planetary Sci, Kyoto Univ)

韓半島東海岸沿岸、花津浦と松池湖において2本のボーリングコアを採取した。それぞれの基盤までの未固結堆積物の層厚は、13.5mと9.9mである。2地点のコアの岩相観察から、1回の海進 海退のサイクルが認識できるが、異なる堆積環境変遷も推定できる。

韓半島東海岸に位置するラグーン、松池湖と花津浦から2本のボーリングコアを採取した。それぞれの基盤までの未固結堆積物の層厚は、13.5mと9.9mである。

花津浦のコアは、1995年のコアの分析結果とあわせて、5つの堆積ユニットに区分される。S 最下位の地層は基盤上の風化の進んだ泥質砂層で、その上位に礫まじりの砂層が重なる。さらに、いくつかのはっきりした明灰色の境界をはさんだラミネーションの発達した粘土層があり、軟X線写真でも観察される。汽水成環境を示す *Potamocorbula amurensis* を含む塊状粘土層がその上位に重なる。最上位には、河口のチャンネル堆積物を推定させるペブル混じりの砂層からなる。

松池湖のコアも、岩相観察と軟X線観察から5つの堆積ユニットに区分される。最下位の風化泥層が基盤上のり、その上位に塊状の粘土層が重なる。さらに整合に、はっきりしたラミネーションの発達した粘土層と貝化石を含む塊状粘土層がその上位に重なる。最上位には地表まで、花津浦と同様に、腐植物の含有率の高いシルト質砂層を挟むペブル混じりの砂層からなる。

2地点のコアの岩相観察から、1回の海進 海退のサイクルが認識できるが、異なる堆積環境変遷も推定できる。

現在実施中の他の分析結果（粒度分析、古地磁気、炭素14年代、炭素、窒素、イオウ含有量、微化石など）から、韓半島東海岸の沿岸潟湖の詳細な完新世環境変遷に関する情報が得られると期待される。